

私の長男は1999年の8月に生まれました。生まれたときに若干の血便があり、1ヶ月検診の際、名古屋市立大学病院での血液の精密検査を勧められました。検査の結果は原発性免疫不全症候群の中の「ウィスコット・アルドリッチ症候群」という難病でした。やがて全身にも点状出血も見られるようになりました。この病気は正常であれば10万以上あるべき血小板が5000未満しかなく、ひとたび出血するとなかなか止まらなくなります。ある時は抱っこしている際にかかる鼻をぶつけただけで鼻血が出てしまい、白いタオルが真っ赤に染まってしまったこともありました。今後脳内出血や悪性リンパ腫の可能性も考えられ、この病気に罹患した場合、平均寿命が10歳程度であるということでした。

主治医の矢崎先生から、この病気を根治するためには造血幹細胞移植、つまり骨髄移植しかないということ、骨髄移植の成功率は年齢を重ねるごとに低くなっていくことなどを聞かされ、私たち家族（両親、姉）の血液検査を行いました。HLAが一致せず、骨髄バンクでHLAが適合するものを探ることとなりました。しかし、国内の骨髄バンクでは適合するものがなく、これからの見通しが全く立たなくなり、絶望感にさいなまれている中で矢崎先生から「臍帯血移植」という方法の説明を受けました。造血幹細胞を豊富に蓄えている臍帯血を移植することで、息子の病気を治すことができるということでした。ただ、当時はこの病気の治療として臍帯血移植をおこなった事例が4件で、そのうち成功したのは2件であったということ、また、臍帯血バンクにHLAが完全一致しているものがなく、一番息子のHLAに近いものでも一致しているのが4/6であることなどの説明を受け、臍帯血移植を行うかどうか夫婦でも悩みました。ただ、このままHLAが完全一致する骨髄が現れるのをあてもなく待ち続けるリスクと、今臍帯血移植を行うことのリスクを考えたときに少しでも根治の可能性があるのなら、と一縷の望みを託し、臍帯血移植を受けることを選択しました。

1歳半で移植を受けた息子は今年11歳。平均寿命をクリアし、現在は元気にテニスやサッカーもしております。臍帯血を提供して下さった、どこかにいらっしゃるお母様からいただいた息子の「命」をこれからも大切に育んでいきたいと思っております。